

【追加配布】

平成27年第3回定例会（9月議会）  
産業観光分科会・委員会 提出資料

平成27年9月24日  
観光文化スポーツ部

【所管事項関連】

観光戦略課	八幡平オートキャンプ場について	・・・	1
観光振興課	秋田・ソウル国際定期便の運休について	・・・	3

# 八幡平オートキャンプ場について

観 光 戦 略 課

## 1 施設概要

- (1) 開業時期 平成5年4月28日
- (2) 敷地面積 187,754㎡(県有地)
- (3) 施設設備 管理棟(1棟:管理人室、売店、トイレ、食堂・大浴場等)  
ケビン(1棟24室:共同シャワー・トイレ)  
ヒュッテ(3棟12室:シャワー・トイレなし)  
サニタリー(4棟:シャワー・トイレ、コインランドリー、炊事場)  
テントサイト(119)、キャンピングカーサイト(11) など
- (4) 収容人数 770人

- (5) 運営状況  
(指定管理)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
利用者数(人)	3,750	2,980	2,518	2,329	2,059
料金収入(千円)	7,066	5,539	4,608	4,251	3,558
当期純利益(千円)	231	△416	269	△1,403	△29

## 2 経緯等

- (1) 指定管理の取消 平成27年5月7日
- (2) 指定管理者の公募 平成27年5月11日～29日
- (3) 公募の結果 公募説明会では6社が参加したものの、応募なし。

## 3 事業者等の主な意見等

- (1) 指定管理者公募説明会に参加した事業者からは、
- ・プライバシー、清潔さを重視した建物の増改築
  - ・個室ごとのシャワー・トイレ設置と防音対策
  - ・和式トイレの洋式トイレ(ウォシュレットタイプ)への改修
- など、ハード面での再整備が必要との指摘がなされており、再開に向けては大規模なリニューアル工事を伴うほか、また、こうした場合であっても、指定管理費の一部について支援が必要との意見が出されている。

(参考) 利用者のニーズに対応した場合の改修

プライバシー重視、快適性・利便性のアップなど、利用者のニーズの変化に対応した最低限の改修を想定

- ・管理棟改修（大浴場・シャワー・トイレ改修等）
- ・ケビン改修（間仕切り・シャワー・トイレ設置、防音対策等）
- ・ヒュッテ改修（間仕切り・シャワー・トイレ設置、防音対策等）
- ・サニタリー改修（和式トイレを洋式トイレに改修等）
- ・上記施設改修に伴う上下水道・機械設備整備 など

(2) 一般社団法人日本オートキャンプ協会からは、オートキャンプ場のあり方として、

- ・現在のキャンプ場は、「自然環境」プラス「イベント」が主流となっている。
  - ・オートキャンプ場の成功事例は、集客が見込める大都市近郊が多い。
- といったアドバイスをいただいている。

#### 4 今後の対応

- 仮に、リニューアル工事を実施するとしても、費用が多額に及ぶこと、また、その場合であっても、現行の完全利用料金制での指定管理は、事実上難しいと判断されることなどから、八幡平オートキャンプ場については廃止する。
- このことに伴い、施設等財産の利活用策を検討する必要があることから、利活用を希望する方から具体の活用策を募っていく。

## 秋田・ソウル国際定期便の運休について

観 光 振 興 課

### 1 概 要

大韓航空から冬期スケジュールの発表があり、秋田・ソウル国際定期便を次のとおり一部運休するとの報告があった。

運 休 期 間：平成27年12月3日（木）～平成28年3月26日（土）  
便 名：KE769／仁川－秋田、KE770／秋田－仁川  
運 休 の 理 由：冬期における需要の回復が不透明であると予測されるため

#### 【参考：これまでの運休状況】

- 平成23年4月2日（土）～4月30日（土）  
理由：東日本大震災の影響による運休
- 平成26年7月26日（土）～10月25日（土）  
理由：同年4月の韓国旅客船沈没事故等により、搭乗率が低迷したことによる運休
- 平成27年6月29日（月）～8月31日（月）※8月1日、3日は運航  
理由：中東呼吸器症候群（MERS）の影響により、市場環境や需要動向が回復しないことによる運休

### 2 県としての受け止め

平成23年3月に発生した東日本大震災の影響で落ち込んだ韓国人の利用は回復傾向にあるものの、日本人の利用については、北朝鮮のミサイル問題や竹島問題に加え、円安・ウォン高が進み減少基調となる中で、特に、昨年4月の韓国旅客船の沈没事故を契機に大きく低迷しており、このことが今回の運休に至った最大の要因と考えている。

冬期間は、年間を通じて韓国人観光客の利用が比較的多い時期であり、インバウンド対策に力を入れている本県にとって、今回の運休は誠に残念な結果と受け止めている。

### 3 今後の対応

秋田・ソウル国際定期便は、平成13年の就航以来、秋田と世界を直接結ぶ唯一の交通ネットワークとして、観光、文化、スポーツ、経済など様々な分野で、韓国をはじめとする諸外国との交流促進や経済の活性化に大きな役割を果たしている。

また、急増する訪日外国人旅行者の誘致を促進する上でも必要不可欠な路線であることから、今後は、きめ細かな情報収集を行いながら、大韓航空に対しては、市町村や民間団体等と連携を強化し、運航再開に向けて粘り強く働きかけていく。

# 秋田・ソウル国際定期便の搭乗率・利用者数の推移(年度)

